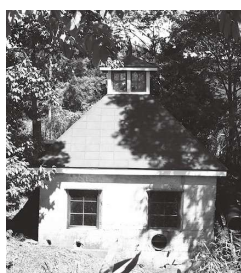


南学田に建物が残る電気揚水機場跡は、高台の用水路に下の水路からポンプで水を汲み上げる設備でした。

大正12年、北海道大学が第六農場（南学田）に電気揚水機組合を組織し、基本設計と2万円の補助を行い「農場内を貫通する角田村水溝より機械動力に依り水田造成を成す」目的で工事が行われ、同年に完成しています。

この揚水機場には、内部に35馬力の揚水ポンプが設置されており、新たに造成された約6・7キロメートルの水路を通じて、153ヘクタールにも及ぶ水田造成が行われました。

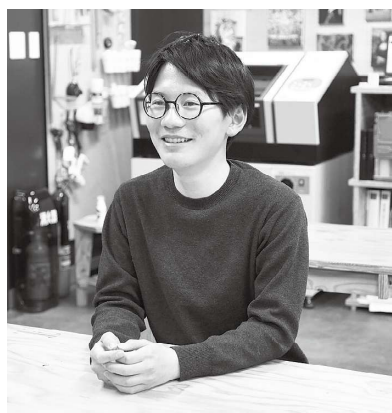
電気は、恵庭にあった漁川発電所から送電され、揚水機だけではなく、『南学田部落



南学田の電気揚水機場

史』では南学田地区の農村電化にも一役買ったとされています。現在の水路は川端ダムからの栗山幹線用水路に変わり、揚水機場もその役割を終えました。

この建物は南学田地区のモニュメント的な歴史的建造物です。小ぶりの建物の屋根に、採光・換気用の小屋根（越屋根）が取り付けられた可愛らしい小屋で、周辺には水路の遺構がそのままの形で残り、栗山の農業記念物として保存し次の時代にも遺したい遺構です。

YouTube で
歴史コンテンツ
公開中！町史資料調査室
☎ 76-7820

ファブラボ栗山運営支援員

よし だ しゅんせい
吉田 峻晟 隊員

今年度4月からファブラボ栗山運営支援員として活動している、吉田峻晟です。昨年度まで秋田県で生活しており、大学生の頃から3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタルファブリケーション機器を活用したものづくりに親しんできました。これまで培ってきた知識や経験を生かし、現在はラボスタッフとして利用者のサポートを行うほか、ファブラボの魅力をより多くの方に知っていただくための企画や試作にも取り組んでいます。

その中でも特に力を入れているのが、ファブラボで製作できるおもちゃの開発です。ファブラボは「自分のアイデアを形にできる場所」ですが、「興味はあるけ

れど何を作ればよいかわからない」「機械の使い方が難しそう」と感じる方も少なくありません。そこで、子どもから大人まで気軽に楽しめるおもちゃを入口として、ものづくりの楽しさや達成感を体験していただける機会を増やしたいと考えています。

今後も地域の皆さんが気軽に立ち寄り、新しい挑戦や交流が生まれる場となるよう、ファブラボ栗山の魅力発信と環境づくりに取り組んでまいります。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

